

僕の名前は
「だよりん」
です。

支援連携だより R5・3号
令和5年 12月 1日
小田原支援学校 支援連携部
題字:高 A2年生徒作品

インクルーシブ教育特集 ~特別支援学校の役割について①~

地域のインクルーシブ教育へ向けての小田原支援学校の取り組みについて紹介します!

そこで..

共生社会の実現に向け、
すべての子どもができるだけ同じ場で
共に学びともに育つことを目指す、
という基本的な考え方のもとで、
インクルーシブ教育を推進している。

インクルーシブ教育の原則は、
通常の学校内に
すべての子どもたちを
受け入れること

サラマンカ宣言 抜粋

特別支援学校は、インクルーシブ教育へ向けて役割を担っています!

【役割 1】特別支援学校の専門性を活かし、地域の幼稚園、小・中学校、高等学校に訪問し、
地域の先生方への助言を行っています。(「センター的機能」といいます)

【役割 2】在籍する児童生徒の居住地域の学校や地域とのつながりを深めるための
「居住地交流」や「学校間交流」などの取組を行っています。

【役割 1】について..

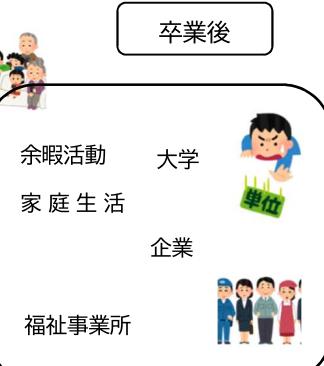
小田原支援学校では、3名の教育相談コーディネーターと、臨床心理士、理学療法士、
相談に応じた専門性のある職員が、幼稚園・保育園・小学校・中学校・高等学校へ訪問しています。

センター的機能

地域の子どもたちの成長を支えます!



小田原支援学校のセンター的機能
(巡回相談、電話相談、情報提供、他機関との連携など)



*市町の教育機関、医療、福祉との連携も行っています。

地域

令和4年度の巡回依頼件数

巡回相談ケース数 96件

幼稚園	3件	小学校	65件
中学校	24件	高等学校	4件

依頼されました

校内は 620 件

主な相談内容

- ・学習の定着に関する事。(わかりやすい教材、ユニバーサルデザインに基づいた授業づくり等)
- ・不登校の子どもへの支援について
- ・合理的配慮に関する事
- ・コミュニケーションについて
- ・からだの使い方について
- ・集団への参加の仕方について
- ・交流級での支援について など

令和5年度に受けた研修会依頼 (10月現在)

特別支援教育研修 肢体不自由児の支援研修
インクルーシブ教育研修(3校から依頼)
特別支援学級新担当者(5件) 進路支援研修

「校内における理学療法士の役割」紹介



自立活動教諭としての役割は、1) 自立活動の指導への指導助言、2) 個別教育計画の作成・評価への参加等、3) 地域の小・中学校への巡回相談等による教育相談への対応となっています。

また自立活動医事相談やブロック内活用、外部機関とのセラピストの方々と様々な連携をはかっています。ここでは、担任、教育相談Co、栄養教諭、看護師、車椅子業者など、校内支援の相談例をいくつかご紹介します。保護者の方からのご相談も、隨時お受けしますのでお気軽にご相談ください。

ポジショニング

～クッションの提案～
股関節脱臼予防クッション



B部門車椅子業者との連携

カウベル年6回来校、学校用
車椅子、腹臥位器の修理、
作製にむけて一緒に姿勢確認



スヌーズレンの活用

多重感覚を通して、子どもたちの笑顔を引き出す取組



姿勢の調整

給食姿勢が気になる・・・
こんな工夫をしてみました



自助具の提案

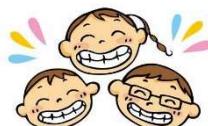
手首の操作性に応じた食具の選定
食堂に曲がるスプーンを購入



校内研修会の開催

- ・初任者研修
- ・プール実技研修
- ・摂食研修
- ・呼吸介助研修
- ・移乗
- ・側弯
- など

学部の取り組み紹介 中B



肢体不自由教育部門中学部（中B）は1～3年生の10名が在籍しています。午前は各科目をグループ別授業で行い、午後は個別学習をしています。個別学習は専門職と相談しながらそれぞれの目標に合わせて、ストレッチや歩行、机上学習等に取り組んでいます。今回は、歩行や机上学習等で使用している支援グッズの一部をご紹介します。



U字ウォーカー
介助歩行の際に使
用しています。



SRC-W
立位姿勢の経験や歩行
練習の際に使用してい
ます。

スイッチ教材
ボタンを押す等を
行い、装置を動か
します。装置を動
かすことへの関心
を引き出し因果関
係の学習等を目
的に行っていま
す。



プットイン
ボールをギュッと押して穴に入
れます。手の巧
緻性を高める
こと等を目的に
行っています。

